



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺

No. 11

天皇、皇后両陛下が
新潟県障害者リハビリテーションセンターに行幸啓

令和元年9月17日に天皇、皇后両陛下が「新潟ふれ愛プラザ」をご訪問されました。

厚生労働大臣の加藤勝信氏、文化庁長官の宮田亮平氏、新潟県福祉保健部長の藤山育郎氏、当法人の荻荘則幸理事長が両陛下をお出迎えしました。同施設内には、新潟県障害者リハビリテーションセンターがあり、荻荘理事長の案内のもと、両陛下は訓練室を訪れ、当センターの利用者が実際に訓練している様子を視察されました。

訓練室では、脳梗塞による右片麻痺利用者に対する電気刺激治療の様子について作業療法士の山田が説明し、脳幹梗塞による左片麻痺利用者に対する自動車運転再開に向けたドライブシミュレーター訓練について作業療法士の高野が説明を行いました。電気刺激治療の場面では、どのくらいの期間この治療を行っているのか、治療を行って左手の動きは良くなってきたかを利用者に質問され、刺激の強さはどの程度なのか、治療の頻度等を職員に質問してくださいました。また、復職に向けて訓練している利用者に対して、大変でしょうが頑張ってくださいねと励ましの言葉をいただきました。ドライブシミュレーターでの訓練場面では、左足でのアクセル・ブレーキ操作をご覧いただいたため、操作に慣れてきているか利用者に質問され、ドライブシミュレーターの中ではどのような障害物が出てくるのか職員に質問されました。また、皇后様は「運転は20数年前に行った以来です」と笑顔を見せてくださいました。

いずれも丁寧にご覧になられ、利用者や職員に優しく励ましのお言葉をかけていただきました。利用者は皆とても喜び、この貴重な経験がこれからの人生の励みになると感動していました。

花角県知事との面談!! ついに実現!

会長 四方 秀 人

先日8月22日に(公社)新潟県作業療法士会として初めて新潟県知事との面談が実現しました。これは平成27年設立新潟県リハビリテーション専門職協議会としての活動の一環で斉藤ひろあき衆議院議員のご配慮、お力添えの下、実現いたしました。

訪庁したメンバーは斉藤ひろあき衆議院議員、(公社)新潟県理学療法士会佐藤会長、(一社)新潟県言語聴覚士会佐藤会長、当士会四方の4名でした。時間は短くも長い30分程度でしたが、作業療法士というお仕事の説明を3分程度行わせていただきました。内容は近年当士会で力を入れている事業説明(全国OT数、新潟県OT数、日常生活総合支援事業地域の茶の間、特別支援教育モデル事業、運転支援事業)を行い、知事からは業務独占か否かや、根拠法について、教育システムの現状や、PTとOTの違い等の質問をされ回答させていただきました。

また、専門職協議会からは12月に行われる新潟県リハビリテーション専門職学会大会の開会挨拶のご依頼をいたしました。花角知事からはご検討いただけるとの回答をいただき、実現すれば大きな進展になると思われます。是非とも会員の皆様からの多数のご参加をお待ちしております。

その後は斉藤ひろあき衆議院議員との意見交換会を別会場で行い、斉藤氏のリハビリテーション関連の国会答弁報告や、課題や展望も含め今後は定期的な意見交換を行うことで合意しました。

このような機会は今までになく、士会にとっても協議会にとっても大きな一歩であると感じています。今後訪れる地域共生社会に向け、会員一人一人が団結し、他業種とも協業し邁進していくことが県民の健康増進、生活充実につながると考えています。これからも会員皆様のより一層のご協力をお願いいたします。



2019年度 新潟市地域包括ケア推進モデルハウス派遣事業報告

～茶の間にアンケートを実施しました～

事業部 地域包括ケアシステム推進事業（茶の間派遣事業）

委員長 笹 川 裕美子

新潟県作業療法士会は新潟市より依頼を受け、平成29年度より新潟市と地域住民が共同運営する「地域包括ケア推進モデルハウス」（以下、モデルハウス）に作業療法士（以下、OT）の定期的な派遣を実施しています。新潟市は茶の間の普及による「住民主体の地域の支え合いのしくみづくり」を新潟市の地域包括ケアシステム構築の要の事業と位置付け、市内8区9ヶ所にモデルハウスを設置しています。OTは毎月モデルハウスに訪問し、地域住民一人ひとりの生活上の困りごと等の相談に対応したり、運営スタッフへ体の不自由な方や認知症の方への接し方、環境面の助言を行っています。昨年度は市内22ヶ所の事業所から36名のOTより協力を得て事業を展開する他、また市主催のモデルハウス活動紹介パネル展に協力し、OTの活動について地域に紹介することができました。

今年度は新潟市より了解を得て、モデルハウスの参加者、運営スタッフ、派遣OTの3者を対象にアンケートを実施しました。アンケートを通して事業の実績や課題の可視化を試み、新潟市が目指す地域づくりに資することが目的です。紙面の都合上、アンケートの方法や結果等を詳細にご報告することはできませんが、地域住民はOTの活動をどのように感じているのか？また派遣OTはどんなことをしているのか？をご紹介しますと思います。

参加者にとって、茶の間は人と交流できる楽しい居場所であり、生きがいを感じて参加している人も少なくありません。地域でお互いに誘い合って参加につながっていることから、新潟市が目指す住民同士の支え合いが広がっていることがアンケート結果に表れました。

OTに相談したことがあると回答した参加者は「気が楽になった」「安心した」等の心理面の変化だけでなく、「生活しやすくなった」「できなかったことができるようになった」等の行動変容につながった人もみられました。また運営スタッフはそうした参加者の変化からOTの活動効果を感じ、今後多様な相談への対応を期待しています。

派遣OTは派遣開始当初、戸惑いや不安を感じたという回答が多くありました。その理由は、新潟市から「参加者一人ひとりに寄り添い、自然な会話の中からその人の生活を想像し、困りごとやその人固有の作業を引き出し、本人やスタッフに助言してほしい」と求められており、体操や講話、アクティビティ等の活動を提供するのではないこと、一方で、必ずしも相談を希望する地域住民が待っているわけではないこと、また新しい総合事業における「住民運営の通いの場」の理解が不十分であること、等が挙げられました。しかし、そこはOT！多くの派遣OTが「まず一人の参加者として茶の間に馴染むことから始めた」と回答し、事業開始から3年目の今、上記のように参加者や運営スタッフから活動効果を認めて頂けるようになりました。そして、茶の間に得た経験や知識、人脈を臨床に還元したり、他の地域支援活動に活かせるようになっていきます。新潟市は、参加者も、運営スタッフも、さらには茶の間に関わる専門職も、茶の間という場を介して相互に活性化することを大事にしています。

アンケート実施結果は新潟市と共有するだけでなく、11月30日に長岡にて開催された第5回北関東ブロック学会で県内外のOTへ紹介することができました。この場を借りて、8区支部長や派遣OTの皆様をはじめ、派遣OTを送り出すために業務をフォローして下さる所属先のOTの皆様のご理解・ご協力に深く感謝を申し上げます。

健康寿命延伸フォーラムへ参加しました！

広報部 地域向け広報委員会

今年も新潟ユニゾンプラザで開催された健康寿命延伸フォーラムに（公社）新潟県作業療法士会として参加させて頂きました。前日まで各地に被害を及ぼした台風19号が猛威を振るっており、開催自体が心配されておりましたが、当日は150名程度の一般市民の方々が来場されました。

新潟万代病院院長の堂前洋一郎先生が「健康寿命延伸のためのロコモ予防」というテーマで特別講演を行われ、関心のある市民の方々が聴講されておりました。

当士会は昨年に引き続き、「認知症チェック」と「生活よろず相談」のブースを設け、短い時間の中でしたが30名程度の方のお話を聞かせて頂くことが出来ました。この様な催しに来場される方々は皆さん健康への関心が高く、心身共に充実されていることが多いです。それでも、やはり自分の将来についてや、あるいは現在でもご家族についての悩みなどを抱えていらっしゃる場合があります。ほんの少しでもその不安や悩みを軽くしたり、肩を押して勇気づけたりする機会になればと考えながら相談をさせて頂きました。

また、皆様の中には日常の臨床経験の中では「患者さん」でも「利用者さん」でもない一般市民の方々に接する機会はそう多くない方もいらっしゃると思います。こういった催しを担当してみると、実際に地域で生活されている方はどんな生活をして、どんな悩みを抱えているのか、そんなことを知ることが出来る機会は実はOTとして貴重なものではないかと実感します。来年度もおそらく同様の催しが開催されると思いますが、少しでも興味をお持ちの方は広報部までご連絡ください。お待ちしております。



朝の清拭を片手で可能にする福祉用具

悠遊健康村病院 作業療法士 五十嵐 柚 里

今回は、清拭時に福祉用具を用いて背中まで拭けるようになった一例を紹介します。

入浴時の洗体タオルは、洗体タオル自体に麻痺側上肢に引っ掛ける為のゴムや布を直接縫い付けて作成します。そうすることで麻痺側の重さを利用し、タオルに張りをすることで背中を擦ることが可能となります。

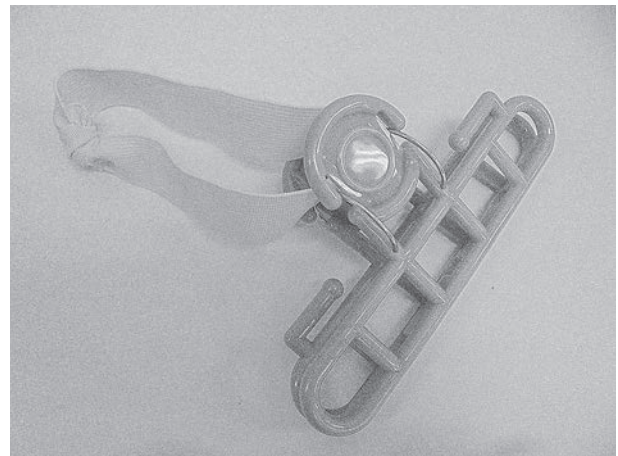
しかし、当病院では朝の清拭時に毎回本人用のタオルを準備することが難しい（朝の清拭時は病棟で用意されたタオルが支給される）為、入浴時の洗体動作は行えていても、朝の清拭時は背中を拭く介助が必要な片麻痺患者がいらっしゃいました。

そこで、どのタオルでも、装着するだけで、麻痺側上肢に引っ掛ける取手を作成しました。作り方は、挟むところが広い洗濯ばさみに平ゴムを取り付けるだけです。材料は二つとも100円ショップで購入できます。

<使用時の様子>



<使用機器>



欠点としては、縫い付けていない為、挟んでいるタオルがとれてしまう可能性があります。しかし、繰り返し練習する事で挟んでいる力の部分を考慮しながら非麻痺側を動かすことが出来るようになってきました。

利点としては、どのタオルにも装着が可能なことです。片麻痺患者でこの道具を利用し、朝の清拭を自立して行えるようになりました。清拭に困っている片麻痺患者がいたら、ぜひ試して頂きたいと思います。

施設紹介のページ



緑樹苑 通所リハビリ

成 田 守 宏

当施設は新潟市中央区の介護老人保健施設緑樹苑の1階に事業所を構えています。医師1名、相談員1名、介護士9名、リハビリスタッフ6.5名（PT3、OT2、ST1.5）を擁し、定員は1日58名で2～3時間の短時間利用者を中心とした施設です。リハビリ機器が充実しており、明るく開放的な空間です。

担当リハスタッフが個別リハビリを20分間提供していますが、自立を促す施設ですので、リハスタッフが関わらずとも機能維持（向上）を目指せる利用者様の中には個別リハビリはせずに自主トレーニングのみの利用者様もいらっしゃいます。

空き時間にはケアスタッフが積極的に自主トレーニングへ誘導し、集団リハビリを実施致します。

常日頃の様子観察から異変にいち早く気づき対処できるように心掛けております。また、医師の関わりが重要と思われる利用者様にはリハビリテーションマネジメント加算Ⅲをお勧めし、多職種で関わり、ご利用者様の目標達成に向けたアプローチを行わせていただきます。



社会福祉法人村上岩船福祉会 障害者支援施設 いわくすの里

水 谷 公 哉

当施設は、平成12年に県北唯一の身体障害者療護施設として特別養護老人ホームに併設され開設しました。平成22年に新体系に移行し、入所20名、短期入所3名、生活介護26名の障害者支援施設となり、身体障害をはじめ知的障害、精神障害を併せ持つご利用者の受け入れを行っています。私は、作業療法士として着任2年目となりますが、ご利用者とのコミュニケーションを大切に、個々の日常生活動作を確認しながら、リハビリテーション実施計画書を作成しています。プランに基づいたリハビリを日々実施し、身体機能の維持・向上を図っています。特に、手指機能については、レザークラフトを取り入れ、ご利用者の希望に合わせた物作りを通して、機能改善を図るとともにQOLの向上を目指しています。

また、いわくすの里では、より安全で安心なケアの追求と職員の腰痛予防対策として「ノーリフトケア」を推進しています。「押さない・引かない・持ち上げない・ねじらない・運ばない」という考え方を実践する取り組みです。全職員がこの技術を習得することで摩擦による皮膚の損傷防止やスムーズな移乗等による介護負担の軽減といった効果が期待できます。新しい取り組みは、当法人の理念「一人ひとりの安心と笑顔のために」の具現化であり、職場の活性化にも繋がっていくと考えています。

移動式リフトでの移乗介助



革財布を縫う作業をしている「利用者



令和元年度 第2回理事会 議事録

日 時：令和元年6月16日（日）14：30～16：45

会 場：燕三条地場産業振興センター

リサーチコア6階 研修室2

出席者：四方、児玉、菊入、貝淵、一ノ本、伊東、尾崎、門脇、北上、小山、佐藤、高頭、松岡、松本、村山、吉井、石井(以上理事17名)、横田(監事)、片桐(書記)

欠席者：能村(理事)、水越(監事)

〈報告事項〉

1. 会長報告

- ・新潟県建築士会「新潟福祉まちづくり研究会」発足記念会議出席。継続的な関わりを考える。
- ・8／22県知事との面会予定。

2. 事務局報告

- (1) 会員管理：会員数1,012名(休会含む)
入会29名、復会9名、退会0名、休会0名 ⇒承認復会希望者で県士会復会届けあるが、協会は入会意向なし。 ⇒定款に則り、復会認めず退会1名、今年度会費入金済み。退会期日近くなったら意思確認する。 ⇒未承認 ⇒地域ケア会議のために再入会の傾向あり
- (2) 受領文書、メール等について報告した。

3. 理事報告

- ・現職者共通（一ノ本理事）
現職者共通研修7／21開催予定。講師は、認定OTを中心に依頼予定。
- ・臨床実習（北上理事）
4／19 晴陵リハ学院臨床実習指導者会議にて指定規則改正に伴う臨床実習のあり方について説明を行った。
臨床実習指導者講習会について：今年度予定ない。
来年度より開催の予定。開催方法、参加費などPT士会との調整進める。養成校協議会との調整会議も行う予定。
- ・地域向け広報（尾崎理事）
5／11・12 福祉機器展。両日ともに100名を超えるブース来場あり、盛況であった。
- ・精神分野（門脇理事）
代表者会議、治療構造見学会について検討した。
- ・第1回新潟県リハ専門職学術大会（児玉副会長）
第3回会議行った。運営委員を学会運営委員会より3～4名出す予定（次回OT士会主導）。
OT士会より5演題確保したい。
- ・財務（吉井財務部長）
積み立てについて、次回理事会で提案予定。
予算執行率は各委員会95～105%を目指し、各理

事管理してほしい。新潟県への決算報告を6月末までに、さくら会計事務所を通し行う。

- ・新潟県リハ専門職協議会（村山理事）
基金研修WGでは、今年度、大分県視察の伝達研修を企画している。
- ・新潟県地域包括ケア専門職協議会（村山理事）
助言者育成研修について、各地区から推薦者募っている。
- ・渉外・新潟市在宅医療ネット情報交換会（貝淵副会長）
ACPの導入についてディスカッションなどあった。
- ・渉外・NPO新潟難病支援ネット総会（一ノ本理事）
難病相談支援センター事業概要などについて報告。
会員であり、積極的に関わっていく方向。
- ・学術誌（能村理事、報告書より）
査読委員選出に難渋している。6／21までに返信ない場合、査読委員は継続していただく予定。
- ・生涯教育（佐藤理事）
生涯教育推進担当者を交代。来年度からの受講の電子登録、受付について模擬練習など実施。
- ・地域包括ケアシステム推進委員会（村山理事）
エリア地区説明会では、地域ケア個別会議状況、助言者育成研修状況などについて説明を行った。
連絡網体制も、各地区の状況を把握した。
- ・特別支援（伊東理事）
依頼があり、小中学校教諭等を対象に魚沼市で講演、十日町市で講話を行った。学校支援における、作業療法について理解は深まっている。
- ・災害対策委員会（貝淵理事）
新潟県作業療法士会災害対策マニュアル作成の検討会議を実施した。
- ・地域包括ケア推進委員会（新潟市茶の間）（松岡理事）
協会機関紙記事のため、にしかんの茶の間に取材があった。今後、掲載される予定。

〈協議事項〉

- ・精神分野推進委員会
追加事業（補正予算）について（吉井財務部長）
県からの委託費200,000円による、精神障がい者地域移行支援事業研修会について、事業計画と補正予算書の提案あり協議した。 ⇒承認
- * 自立支援協議会のアドバイザーで菊入副会長、参画予定。委員交通費から支出する。
- ・レッツリモコン貸出事業（一ノ本理事）
協会から受託のレッツリモコン貸し出し事業、貸し出し規定について協議した。 ⇒承認
- ・災害対策マニュアル（貝淵副会長）
新潟県災害対策マニュアルについて協議した。
⇒未承認

⇒発災の状況、各フェーズで整理してマニュアルを考えていく必要がある。今年度、一度完成し各病院施設に一部配布する予定であり、秋の配布を目標とする。

以上

令和元年度 第3回理事会 議事録

日 時：令和元年8月17日（土）13：30～16：00

会 場：新潟県作業療法士会事務局

出席者：四方、貝淵、菊入、児玉、石井、一ノ本、伊東、尾崎、門脇、北上、小山、佐藤、高頭、能村、松岡、松本、村山、吉井(以上理事18名)、水越、横田(以上監事2名)、本間(書記)

〈報告事項〉

1. 会長報告

- 47委員会報告（協会員＝士会員は5年で完了・資格登録の更新制度、教育水準の引き上げ・高齢者自立支援、重度化防止へのインセンティブについて等）

2. 事務局報告

- 会員管理：会員数1,042名(休会含む)
入会30名、復会2名、休会0名、退会2名 ⇒承認
- 受領文書、メール、後援事業等について報告。

3. 理事報告 ＊報告の順

- 学会誌・学術誌の著作権について（高頭理事）
現在規定が無い。⇒学術部で調査しひな型を作成。
- 渉外・新潟県ホームヘルパー協議会研修(貝淵理事)
6月20日に研修会講師。次回10月3日も講師出席予定。
- 健康寿命延伸にかかる他職種協働推進委員会(貝淵理事)
今年度の健康寿命フォーラムは10月14日予定。
- 災害対策委員会（貝淵理事）
第5回REHUG研修会打ち合わせに参加。
- 学会運営委員会（高頭理事）
会場はハイブ長岡で締め切りは1ヶ月前。当日参加の人数が予想困難。当日受付で参加者の参加費が高いことへのクレームが予測。
⇒対応理事の配置を
演題は33題登録済み、締め切りまで多少増加も。
- 現職者共通研修委員会（一ノ本理事）
今年度よりMTDLP実践研修参加で共通研修の⑨事例検討会に読み替え可能。また、事例検討・報告会を10月から3月へ変更した。
- 生活行為向上マネジメント委員会（小山理事）
MTDLP実践研修事例検討会・基礎研修フォローアップ研修報告。今後は若手に絞って普及啓発。
- 地域包括ケアシステム推進委員会（村山理事）
各地区での説明会実施報告。細かい情報収集が行

えた。今後はネットワーク構築の支援が必要。

- 地域包括ケアシステム推進委員会（松岡理事）
モデルハウス関係者へアンケートを実施、集計した。
- 特別支援教育委員会（伊東理事）
8月31日に研修会を予定。
- 障害福祉対策委員（北上理事）
新パンフレット9月中旬に作成、10月に完成を目指す。
- 福祉用具対策委員会（小山理事）
事例集活用について報告。村山理事より地域ケア会議の助言者に配布して良いか確認あり。
⇒データ送信へ
- 精神分野推進委員会（菊入理事・門脇理事）
精神領域での地域ケア会議ができると良い。
情報共有会については9・10月と計画しているが、参加人数が伸び悩んでいるため、各施設へ電話する。
- 移動支援対策委員会（村山理事）
研修会報告。全国各地の実践事例について話があった。
- 第1回新潟県リハ専門職学術大会（児玉理事）
事前登録をしてほしいとの説明。
- 福利厚生部 新人オリエンテーション（石井理事）
29名の参加。
⇒次年度は若い委員の話もと提案あり
- 新潟県リハビリテーション専門職協議会(村山理事)
10月20日大分視察へ。
10月27日助言者向け研修開催。
11月23日新発田市県民フォーラムへ横田氏が派遣。
3月に訪問リハ研修あり。財団から認定証が付与予定。
- 臨床実習指導者講習会（北上理事）
PT・OT協議会が次回11月11日のため、OTの意見をまとめる。
＊9月21日にOT内で県士会と養成校との意見調整の場を計画。PTとの合意調整図る。
- 地域向け広報 高校生一日体験（尾崎理事）
昨年度は協力可能施設に公文書を発送していたが、今年度はなく問い合わせあり。
⇒来年度は協力依頼の際に公文書を同封していく

〈協議事項〉

- 災害対策マニュアルについて（石井理事）
災害対策マニュアルの構成と内容は、組織として対応していく内容が分かるものであればよい。今年度、各施設に1部配布し、活用してみてご意見を頂き改定していく。冊子での作成でなく、ファイルにしてページを差し替えられるようにする（内容を随時改定していく）。

予算内で300部作成。 ⇒次回理事会にて再検討
その他本部設置やホットラインについて協議

⇒承認

・積み立てについて (吉井財務担当理事)

①特定費用準備資金の積み立てについて

40周年記念式典の目的や内容を明確にして計画的に適切な規模の予算を組んでいく必要がある。

②事務局移転について

事務局が手狭であり、移転の必要性が高いのではないかと。委託事業や対外事業を行っていくには事務局機能が必要。次年度計画に盛り込んでどうかとの提案。

購入または賃貸、ユニゾンなどの公共施設等に入れないか思案中とのこと。

⇒移転を視野にいれ検討していく

〈連絡事項〉

・吉井財務担当理事より

7月28日開催の移動支援研修会で謝金の未払いがあり、お詫びと謝金を送付した件について報告。各理事、研修に講師等の手続きについて十分確認をお願いしたい。

以上



急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel: 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848

新潟営業所 TEL 025-284-6866

福祉・労災指定
各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017

新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27

TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710

<http://www.gtb-niigata.jp/>

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号



(株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11

TEL 025 281-0303

FAX 025 281-0339



広報委員会ではこちらに掲載する皆様の作業療法の成果を募集しています！Activityによる作品や利用者様との思い出の写真等なんでもOKです！少しでも興味のある方は下記の連絡先まで!! (次回発行は2月頃を予定しています)

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No.11 2019年11月30日発行

発行責任者：四方 秀 人

編集責任者：尾 崎 生

発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社 タ カ ヨ シ

第54回日本作業療法学会

The 54th Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Niigata



作業の魅力・作業の力
～暮らしを支える作業療法の効果～

The Attractions and Potentiality of Occupation
- The effect of Occupational Therapy supporting people's daily life -

開催期間 2020年 9月 25日(金) ▶ 27日(日)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

主催 一般社団法人 日本作業療法士協会

学会長 石川 隆志 秋田大学
大学院医学系研究科保健学専攻

運営事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町2

TEL: 03-3263-8688 FAX: 03-3263-8693 E-mail: ot54@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/ot54/>

